

## メサドンへのスイッチング方法の違いによる影響の検討

### 1. 研究の対象

2021/1 から 2022/12 の間で当センターに入院しメサドンを開始した 6 名の患者さん

### 2. 研究目的・方法

メサドン(以下、MD)は、他の強オピオイド鎮痛剤で治療困難ながん性疼痛を適応とし、stop and go(以下、SAG)でスイッチングするとされています。

MD について、難治性と予想される疼痛に早期からのスイッチングや、先行オピオイドに追加した後に先行オピオイドを漸減/中止する報告を散見されています。そこで、MD 使用例を通してスイッチングの時期や方法の違いによる影響について考察します。

2021 年 1 月～2022 年 12 月の間で当センターに入院し MD を開始した 6 名の患者さんを対象とし、患者背景、先行オピオイドの種類と投与量、疼痛機序、MD 開始理由、スイッチング方法、至適用量への到達の可否と至適用量、到達期間、有害事象について後方視的に調査します。至適用量到達の定義は国内第Ⅱ相臨床試験での基準を採用します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、年齢、病歴、薬歴抗がん剤の治療歴、副作用等の発生状況、心電図データ 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

大阪国際がんセンター 薬局 神農 理衣 (研究責任者)

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上